

高円宮妃久子さま還暦 自然保護活動などに取り組む



バードライフ世界大会の開会式「カナダ・ナイト」のあいさつで、故高円宮さまと東京のカナダ大使館で出会ったなれそめについて語る高円宮妃久子さま＝6月19日、カナダ・オタワ、バードライフ・インターナショナル提供



バードライフ世界大会の参加団体が活動をアピールする「パートナーシップ・フェア」で香港野鳥の会の参加者と握手する高円宮妃久子さま＝6月20日、カナダ・オタワ、バードライフ・インターナショナル提供

【北野隆一】高円宮妃久子さまは10日、60歳の誕生日を迎えた。6月には名誉総裁を務める国際環境NGO「バードライフ・インターナショナル」（BLI）の5年ぶりの世界大会出席のため、カナダを訪問。「自然への畏敬（いけい）の念や感謝の気持ちを忘れない社会を取り戻したい」との思いで、鳥類などの自然保護に取り組んでいるという。

野鳥観察が趣味の久子さまは南米パラグアイの代表から推薦され、当時名誉総裁だったヌール前ヨルダン王妃からの依頼の手紙もあり、2004年にBLIの名誉総裁に就任。08年にアルゼンチンの世界大会に出席したほか、各地で環境保護を訴える講演や野鳥の写真展を開いてきた。

BLIは1922年、英国で設立された。118カ国の自然保護団体が参加し、会員数250万人。国際自然保護連合（IUCN）とともに鳥類の絶滅危惧種の「レッドリスト」づくりにかかわっている。

今年の世界大会は6月18～22日、カナダの首都オタワで開かれ、久子さまは表彰状授与式や野鳥観察に出席。最終日の22日にはあいさつし、「私たちは科学者と鳥の



バードライフ世界大会の参加団体が活動をアピールする「パートナーシップ・フェア」で、開催国カナダの団体ブースで記念撮影する高円宮妃久子さま＝6月20日、カナダ・オタワ、バードライフ・インターナショナル提供

愛好者、自然保護活動家の集まりであり、理想を実現できる。持続可能な世界づくりのため、N G Oは企業と手を携える必要がある」と呼びかけた。

B L I アジア・ディビジョン（支部）の鈴江恵子代表理事は、久子さまについて「語学が堪能で、野鳥や自然環境の知識が豊富。各国から『ずっと名誉総裁をお務めいただきたい』との声があがっています」と語る。



バードライフ世界大会で名誉総裁として功労記念メダルを授与する高円宮妃久子さま＝6月22日、カナダ・オタワ、バードライフ・インターナショナル提供

高円宮妃久子さまに、国際環境N G O「バードライフ・インターナショナル」の名誉総裁として野鳥保護や自然保護に取り組んできた思い、野鳥観察や撮影の楽しみなどについて尋ねた。以下は、60歳の誕生日となる10日に寄せられた回答の全文。



バードライフ世界大会の90周年記念夕食会「ガラディナー」でお祝いの言葉を述べる高円宮妃久子さま＝6月21日、カナダ・オタ

バードライフ・インターナショナルが科学的データに基づいた環境保護を進めていること、そして現場主義であり、教育や職業訓練なども含めて地域の人々の生活の向上にも取り組んでいることなどが高く評価されていることはとても嬉（うれ）しく思っています。環境問題への取り組みは誰かに任せるのではなく、一人ひとりの意識改革が必要です。科学者が集まって設立された団体であることを忘れることなく環境保全を進めながら、一人ひとりが自然に対しての畏敬（いけい）の念や感謝

ワ、バードライフ・インターナショナル提供



バードライフ世界大会の「パートナーシップ・フェア」であいさつする高円宮妃久子さま＝6月20日、カナダ・オタワ、バードライフ・インターナショナル提供

の気持ちを忘れないような社会を取り戻せたら、と願っております。

野鳥の表情や仕草（しぐさ）を見ることは楽しく、その日常の一瞬をカメラに収めることができたなら、と思って撮影を続けています。また、各地で観察や撮影をいたしますが、地元の方々と鳥との共存をみるのも楽しいです。

特に好きな鳥が一種類あるわけではありませんが、いつか見たいと思っているものは何種類かいます。威风堂々とした猛禽（もうきん）類から隔離された地域でびっくりするよ

うな進化を遂げた種類、はっとするような美しい繁殖羽をもつ種類などたくさん思い浮かびます。ただ、鳥と会うのもご縁ですから、目的の鳥に会えなくても、あまりがっかりすることはありません。また、身近にいるはずの鳥の減少ほど怖いものはないと考えております。

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © 2013 The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.